

# WEB版

## ことぶき共同診療所だより

第 46 号

2018 年 12 月 22 日 発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F  
電話とファックス 045-651-2305 (診療所) 045-305-4322 (鍼灸院・資料室)

E-Mail [info@kyoudouclinic.com](mailto:info@kyoudouclinic.com)

<http://kyoudouclinic.com>

発行：医療法人ことぶき共同診療所

## 目 次

|                                       |                |
|---------------------------------------|----------------|
| 2018 年下半期をふりかえる .....                 | 鈴木 伸 ②         |
| デイケアなう .....                          | 橋本等、デイケアメンバー ⑤ |
| “診療室から” (42) - 寿の風 - .....            | 越智 祥太 ⑦        |
| 寿町関係資料室コレクション .....                   | 松本 一郎 ⑧        |
| - 【7】日本社会事業大学『寿町に於ける労働者の問題』 -         |                |
| 寿町地域ニュース・あらかると ('18 年 7 月~10 月) ..... | 松本 一郎 ⑨        |
| 職員自己紹介 .....                          | 新田 慎一郎・永野 千尋 ⑩ |
| 診療所日誌 ('18 年 7 月~10 月) .....          | 矢島 雅子 ⑪        |
| 共同診療所・鍼灸院ガイド .....                    | ⑫              |



## 2018年下半期を ふりかえる

### 【はじめに】

今年も残すところあとわずかとなりました。猛暑に耐えてもうろうとしている間に、気がついたら急に肌寒くなってきてびっくりしている今日この頃ですが、いかがおすごしでしょうか？

皆さんは子供のころ「宿題をやりなさい」と言われて、「いま、やろうと思ったのに。やる気なくなった」という体験はありませんか？ 私は小さい頃勉強が嫌いな人間だったので、特にそうでした。

依存症の方にかかわるとき「こんなにひどいんだからやめなきゃだめでしょ！ちゃんと反省してください」といえばいうほど、なぜか逆にやめてもらえません。一方、「かなり、難しいなあ」と思って、とやかくいわずとりあえず見守っていると急にお酒をやめてしまったということもあります。

以前からある「自助グループ」や、最近話題になっている「オープンダイアログ」「当事者研究」「ナラティブ・アプローチ」には共通点があります。それは、何か問題があった場合にも本人を「責めない」ということです。むしろ一時的にでも責任からちょっと距離をおいて一緒に考えていくところが共通点であります。

先日、『「中動態」とオープンダイアログ』という講演会を聞きにいき、そこでその「責めない」ということの大切さを目の当たりにしました。

講演会は、國分功一郎先生が執筆された『中動態の世界』の解説を中心に、「中動態」という意志や責任の所在を問わない「言葉の在り方」というものであり、これは人が回復していくために有効なものでないか？というものでした。

執筆者の先生が、執筆された本のポイントをわかりやすく解説してくれるので興味深かったのですが、その講演に対する会場の方の発言が更に興味深いものでした。

ある方は長年抑うつ状態で苦しんでいたのですが、「中動態の世界」を読みおえたあとから憑き物が落ちたように心が軽くなり改善したというのです。

また、別の方は自分がある犯罪を犯してしまうことに悩んでおり、周囲から「反省しなさい」と言われて何とか反省しようとするものの、いままでどうしても反省することができなかったそうです。しかし、シンポジウム話を聞いているなかで、「ふつとどういことをすればいいのか腑に落ちた」と語っていました。

広い意味での「回復」は意志や責任を問われ続けるような状況から生まれるものではなく、少し距離をおいて見つめることから生じるのだなという思いを新たにしました。

と考えたところで、なぜ「宿題をやれ」といわれるとやる気が出なくなるのかがなん

となく理解できたように感じました。そして宿題をやらない子供たちにかみかみいってしまう自分の姿にハッとしました。

責めたくなるところをぐっと我慢して、その問題を一緒に考える「姿勢」を保つこと。これはかなりの「心の筋力」が必要な気がします、その為の筋トレをつづけていきたいと思う今日この頃です。

### 【まれにみる猛暑でした クーラーは「贅沢品」？】

今年の夏はまれにみる猛暑でした。気象庁でも「災害級レベル」と称された今年の夏でした。15 年前寿町に来たばかりの時は、夏と言えば「点滴」のシーズンでした。脱水で具合が悪くなった患者さんが次から次へと診療所を訪れ、ベットは軒並み点滴をする患者さんで埋まり、さながら野戦病院のような状況を呈することが多かったのです。ある時寿町の真ん中にあった市営住宅で、熱中症で入院された方がいました。当時の市営住宅ではクーラーがついていないところが多くありました。せっかく退院してもこのままでは再度熱中症にかかってしまうと思い、役所のワーカーさんにクーラーをつけることはできないのか尋ねましたが「贅沢品なので無理」とのことでした。やむを得ず近所のリサイクルショップで安い中古品をみつけ取り付けしたこともありました。近年新しドヤが増え、部屋には軒並みクーラーが入るようになったため、夏に脱水で点滴をしなくてはならなくなった人は激減しました。今年も幸い熱中症になる人は心配したほどは出ず胸をなでおろしております。今後も猛暑が続くと予想され、も

はやクーラーは「贅沢品」ではなく、命を守るための「必需品」であると考えます。他地区の生活保護の方はかなり大変な状況になることが予想されます(今年度から新しく生活保護になる方は認められるようですが)。なんとかそうならないことを祈るばかりです。

### 【忘れえぬ人】

診療所というものをやっている以上、出会いと別れが訪れます。この半年も多くの方々との別れがありました。

長年診療所に通っていた A さんもその一人です。A さんはかつて任侠道を歩んでいた方でした。もともと気性が荒い方で、いわゆる「鉄砲玉」で抗争の最前線にいたそうです。しかし、その間に病気を発症。躁状態になると自分でコントロールできないほどになってしまい、きっちり薬は飲んでいるのに入退院を繰り返していました。ご本人も常々、そのことに悩んでいらっしやいましたが「自分はかつて人にひどいことをしていたからその報いである」と常々語っていました。診察の間ではこちらが身震いするような「鉄砲玉時代」の武勇伝が開陳され、一方で、遠方の施設に入所されている親御さんをお見舞いした話など優しい側面も覗かしてくれました。とても律儀な方で独学したという勢いのある筆で書かれた年賀状や、入院中の報告のお手紙を診療所やスタッフ宛に送ってきてくれました。また、自分の信念を書き綴った色紙を飾っておくようにとプレゼントされました。来院するのは毎月土曜日の最後と決まっていて、その土曜日は朝から緊張している自分がい

ました。大変だけど憎めない、そんな A さんがあるときからうつ状態となり元気がなくなりました。いままでの勇ましい発言が影を潜め、弱気な発言がめだつようになり、死をほのめかすような発言も目立つようになりしました。ご本人を説得し入院をして頂き、一安心しておりましたが、その時の会話が A さんとの最後の会話となりました。退院直後 A さんは私が不在だった診療所を訪れ、近いうち訪れる旨挨拶をされていったそうです。しかし、その数日後自宅で亡くなったという連絡に呆然としました。私とは全く違う厳しい世界を強烈に生き切った A さん。ご冥福をお祈りしております。

### 【元天才少女登場】

10月より当院デイケアに期待のニューフェイスが登場しました。学生アルバイトの永野千尋さんです。実は永野さんは幼少期、天才ギター少女として活躍。あの加山雄三さんとも共演したことのある逸材だったのです。現在は患者さんのリハビリを行う作業療法士を目指して勉強中です。きっと得意のギターで患者さんのモチベーションをあげてくれると思いますが、ぜひ自由な発想で創造的なリハビリに取り組んでみてください。

### 【松原英一さん亡くなる】

去る 8 月 15 日に当院の監事をされていた松原英一さんが急逝されました。松

原さんは、当院の監事のみならず、クリーンセンターでも会計のお手伝いをしていただいております。とても穏やかな方で、全身から優しさがにじみでているような方でした。持病を持ちながら、体調がすぐれないときも診療所を、そしてクリーンセンターを助けていただきました。ご冥福をお祈りしつつ、天国にいかれても俊夫先生とともに笑顔で診療所を見守っていただけるようお願いする次第です。

### 【いろんな方々が寿町を訪れました 寿町を体験し、考える】

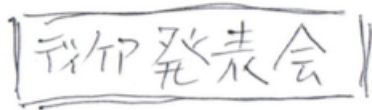
この下半期も診療所に多くの方々が訪れました。松本市の信濃むつみ高校の学生さん、湘南看護大学の学生さん、神奈川病院、あさひの丘病院のスタッフの方々、群馬大学の医学生岩澤さくらさん。その他多くの方々が訪れております。寿町で頑張るヘルパーさんに同伴したり、アルクでミーティングをみたり、当事者スタッフからお話を伺ったり、診療所で実習をしたり、作業所の見学、寿福祉プラザや自立支援施設「はまかぜ」の見学などなど・・・をプログラムとして組んでおります。自分自身も学生時代にあちこち見学し、考えたことが現在にも生きているので、その恩返しとして企画しております。見学者の方の感想や意見を聞きながら、より充実したプログラムを企画していきたいと思います。ご期待ください。

(鈴木 伸)

# デ イ ケ ア な う

ぜんぜんごう きょうどうしんりようじよ  
前々号より「ことぶき共同診療所だより」にデイケアメンバーさんからの文やイラストをのせて  
いただくようになりました。それらの文やイラストからたくさんの刺激を受けました。  
みなさんの思いや感じていること一つひとつが私の心にひびいてきました。  
デイケアに通って何年もたつ方やまだ数カ月の方。それぞれが「今」を生きていらっしゃる。過去に  
大きな何かを抱えている方が多いと思いますが「今ここに通ってきている」。  
一人ひとり「明日」のあり方は違うと思いますが、いつかきつとすてきな「明日」が来ることを思い、  
私も「今」を生きております。  
私自身、毎日楽しく、学ぶことも多く、たくさんの経験をさせていただいております。  
読者の皆様。ぜひデイケアをのぞきに來てください。  
お待ちしております。(おじじ 橋本 等)

## 発表会



発表会で劇をしました。みんながどう思  
うか気になったけど、最後に拍手してくれて良  
かったです。あと調理ではけがをしない、さ  
せない、穏やかな雰囲気になるように気を付  
けています。(T.M)

みんな出来ることが沢山増えて時間内で収  
まらないくらい楽しいです。最初は緊張しま  
すが、やりがいがあります。(N.Y)

発表会またやりたい。(A.T)

## 稲子



さあ、稲子へ Go。バスの旅が始まったぞ。  
今日の夜はバーベキューです。すごく楽しみ  
です。そろそろバーベキューが始まります。  
最初は炭に火をつける作業から始まる。なか  
なか時間がかかってしまった。肉を焼いたり、  
野菜を焼いたり楽しかった。終わったらゲー  
ムをして過ごした。眠れない朝までN君と二  
人でコーヒーを飲んで過ごした。久しぶりの  
遠出で心がうきうき。楽しい思い出となりま  
した。デイケア万歳！！(H.T)

稲子にまた行きたい。(A.T)



稲子に行ってバーベキューをしたりゲームをしたりして楽しかった。(U.Y)

## 運動会



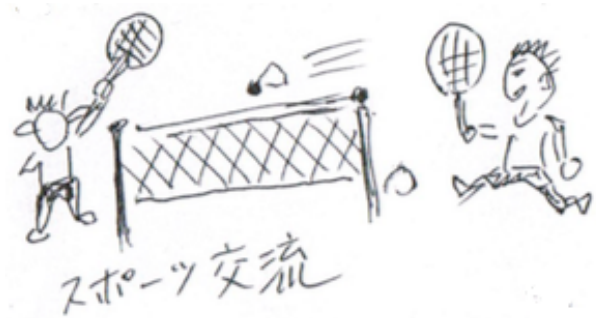
綱引きが楽しかった。(A.S)

毎年行われる大運動会。いつもはのどかな公園に大歓声があがる！！当日は朝方パラパラ雨降り天気。ダメかなあと思っていたら晴れてきました。やった、できるんだとがぜん元気が出てきました。大会が始まって、皆さん各競技を喜びいっぱい力いっぱい参加している姿に、スポーツは日々いろいろな事があっても忘れさせてくれると思います。赤組、白組のチームワークで、力と技のぶつかり合いの一大イベントです。(N.K)

## ゲーム

ゴルフが楽しい。(A.S)

プログラムが終わる3時ごろになると、レクゲームと言って卓球、ゴルフ、ボーリング、ストラックアウトの中でみんなで何がやりたいのか聞いて決まったゲームをします。今の自分にとって、プログラムが終わった後のレクゲーム、いろんな仲間と一緒に楽しむので、とても心が落ち着いて安心します。こういう仲間や面白くて楽しい職員さんに囲まれてとても幸せです。最高です。(I.I)



## 江の島



江の島に行って帳場さんにシラスを買いました。おにぎりが美味しかった。小田急が懐かしかった。(S.H)

## 昼休み

テーブル卓球やピアノ、オセロなど、いつも楽しい場所で、日中飽きないデイケアです。

## ひまわりの会

少しずつ皆さんが話せるようになって、病状や行動、環境が違うのに似ていて面白いです。お互いに話すことで、ひまわりの会以外でも話ができるので、このまま続けてやっていきたいです。

## 調理のプログラムについて

最初は何にもできなかったけど、職員さんとデイケアのみんなの支えもあって、野菜を上手く切ることができました。いろんな野菜の切り方を教わりました。まさか自分にできると思っていなかったの、うまくなできた時はすごくうれしかったです。今度は違う料理の仕方を習って頑張りたいです。少しだけ作る喜びを知りました。(I.I)

## お茶のプログラムについて

初めのうちは、先生がお茶を入れていたけど、途中から先生じゃなくてデイケアの仲間同士でいれてはどうかと意見が出て、それから二人一組でお茶を作って相手に飲んでもらい、次は交代してお茶を飲みました。先生に入れてもらったお茶もおいしいけど、デイケアの仲間に入れてもらったお茶も美味しかったです。(I.I)

本文中のイラストは、Nむらさん作です。

# “診療室から” (42)

## 寿 の 風

先日或る住民に、二十年の付き合いだもんな！と言われはっとした。二十年の変化を考えた。

若い頃は精神分析志向でもあり、じっくり一対一で伺うのが好きで、他者が入ると緊張した。同伴する生保ワーカーに敵対的だったりした。

最近、寿には様々な立場の学ばされる支援者が多い。住民と支援者と共に話すのが楽しみになった。年を取ったこともあるだろう。

町には見知る住民が増え、意外な間柄を知り、診察室で相互影響を伺うのがまた楽しい。

隣の支援者をちらちら見ては立てつつとぼける住民に、支援者が脱力しながら親しみ溢れる掣肘を加え、笑い合う姿を見ては、この瞬間にどれだけ長い悲喜こもごもが反映しているだろうと感じ入り、贅沢な時間を頂いていると思う。

俊夫さんは診察室で他職員と、患者さんと支援者と大勢で歓談するのが好きだった。後ろで聴いていたら、いつまで経っても本題に入らない。雑談が本題と悟る頃には、せかちぼ(せっかちんぼうと長く言うのも耐えられないという山本周五郎の洒落)なので早々に退いたのを思い出す。俊夫さんはさりげなくもう一つの共同体を現していたのだ。今ならオープンダイアログ的、と評されるだろう。

飲酒の直面化をしては却って酒溺され落ち込み、一方飲ん兵衛の俊夫さんは酒に触れないのに患者さんが断酒している。何故だ。

飲んで荒れて見せる住民に、退場～！(そりゃそうだ)また明日～！(ええっ)と笑い合う職員。矢島さんの口癖、よってたかって行っちゃいますから、もれなく他の職員もついて来ますから。目が悪い住民の部屋の多種多量の虫退治を、きやあきやあ言いながらよってたかってもれなく行っっては住民と笑い合う、職種が分からない職種を越えた職員。これか！とセクト意識の目から鱗が落ちた。多職種連携訪問を自然に先取り、と今なら評されるだろう。

あちこちで話したせいか、最近矢島さんの口癖が聞かれないと思うと、たまに他職員から聞かれて面白いと思う。

患者さんがとても増え、寿医療班の延長のような運動体から、医療機関に堅く変わるところもあるが、今はそこに外の住民や支援者が、俊夫さんの関わりを思い出させてくれる風を運んでくれる。

寿の長い支援者が大切にしてきたもの、新たな流入者が心惹かれるものも、きっと俊夫さんが大切にしたものと同重なるだろう。

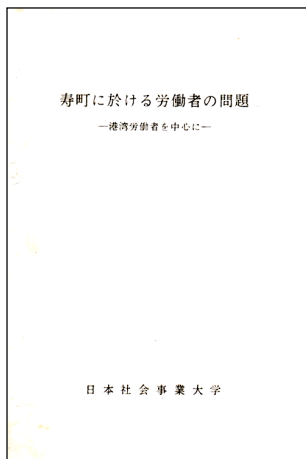
受け継がれ、拡がることを願っている。

(越智 祥太)

## 寿町関係資料室コレクション

【7】日本社会事業大学『寿町に於ける労働者の問題 -港湾労働者を中心に-』

(1968年3月、全85頁)



前々回と前回(本紙44-45号)、1960年代の寿の子どもへの教育・生活援助に着目して「子ども会ぼっこ」「ことぶき学級」の冊子を紹介した。子どもが多く暮らしていたということは、家族世帯の大黒柱に港湾や建設現場などで従事する労働者がいたということである。1965年には市直営の相談所「寿生活館」が設立していたが、相談員の念頭には「一体、簡宿にはどういう人が住んでいて、生活や労働の実態はどうなっているのか。それを知るためにはどういう方法があるか」といった課題が常にあったのではないかと思われる。労働や住居に規定されて、日々の生活や子どもの教育がある。特にこの町には生活に困っている人が多い。実態把握は、相談活動にも対策の起案にも不可欠である。

当時、生活館相談員の宇田知道さんと田中俊夫さんは、常時相談に応じられるようにドヤ住み込み生活(セトルメント)をしていた。宇田さんは社会事業大学卒で、田中さんは在籍していたことがあった。本冊子の「はしがき」には、「このドヤ街、特にそこに居住する人たちの生活実態について、何らかの信頼するに足る資料をえたい、そして生活館の事業を地域住民の要求によりよく応えるものにしたいが、なかなかそれができないという生活館の皆さんの嘆きをうかがったのが、二年ばかり前のこと」とある。こうして社会事業大学と生活館がつながって、調査実施となった。その調査結果報告書が本冊子である。

本調査は、1967年7月7日から7月11日までの5日間(泊り込み)、社会事業大学・仲村優一氏の社会調査実習の一環として、調査班14名で、寿生活館(中根愛治・宇田知道・田中俊夫・柳瑛子の各氏)を協力機関として実施された。調査時点で83軒の簡宿があり、1軒あたり約4世帯の協力を得て、家族の中での生計主体者336名に面接調査を行っている。短期調査でありながら、各簡宿から協力者を募っており、しかも協力者が300人規模と多い(単純計算で調査員1人あたり24人を調査)。加えて簡宿人口調査も行われている。

さて、本報告書本体は、「調査の概要」「第一章 寿ドヤの歴史と特質」「第二章 港湾労働者の労働条件」「第三章 港湾労働者の日々の生活」に分かれ、付録として巻末に「一調査班員の体験記録(南健次氏執筆)」「調査対象336人に関する素集計」「調査票」が掲載されている(目次と本文の章タイトルが違っており、本文の方を記載)。第一章では、ドヤ街の一般的性格とその都市雑業層との関連性、山谷・釜ヶ崎の特徴とドヤ街の社会的役割、寿ドヤ街の発生と現況、港湾労働の一般的性格や特殊性について「波動性」(寄港する船の数が仕事の繁閑になり労働力需要の波が起こること。常にバッファーとしての日雇労働者が必要となる)をキーワードとして述べられている。第二章では、賃金、労働時間、就労日数、社会保障について、第三章では、食生活、住生活、家計の収支について述べられている。本報告書では、他のドヤ街や主要港湾との比較をしながら、寿の社会的位置や特徴を描き出す工夫がなされている。ここでは網羅的に紹介できないが、以下、人口と年齢、労働形態、出身地等のみ紹介する。

図表1 人口と世帯数

|      | 人口   | 比率     | 世帯数  | 比率     |
|------|------|--------|------|--------|
| 単身世帯 | 3682 | 65.4%  | 3682 | 84.0%  |
| 複数世帯 | 1946 | 34.6%  | 701  | 16.0%  |
| 計    | 5628 | 100.0% | 4383 | 100.0% |

出所:本報告書3頁より作成

図表1のとおり、1967年7月時点で、総人口は5,628人、総世帯4,383世帯で、総人口に占める



複数世帯人員の割合は3割強を占めており、夫婦世帯と有子世帯が多く暮らしていたことが分かる。

図表2のとおり、年齢は30代にピークがあり、40代以下で実に9割を超えている。労働形態は港湾労働者が7割弱、土木建築が約15%、その他が約17%であり、1960年代後半の寿町はまだ港湾労働者が多数であり、その内、常用雇用と日雇は概ね半々であった。出身地は、関東が4割弱、次に東北、中部と続く。九州、北海道は近畿・中国・四国と比べるとやや多くなる。近畿・中国・四国の人は大阪・釜ヶ崎に向かう人が多いのであろう。前居住地をみると関東が約5割となっているため、出身地の地方圏から一旦関東で暮らし働いてから寿に移ってきた人が多いことを想像させる。総人口5,628人に対する336人のサンプル調査(6%)であるとはいえ、当時の寿町労働者について貴重なデータを提供している。

図表2

| 年齢階層別人口 |     |        | 労働形態別人口      |     |        | 出身地 |     | 前居住地   |     |        |
|---------|-----|--------|--------------|-----|--------|-----|-----|--------|-----|--------|
|         | 人数  | 比率     |              | 人数  | 比率     |     | 人数  | 比率     | 人数  | 比率     |
| 30 歳未満  | 86  | 25.6%  | 港湾労働者        | 225 | 67.0%  | 北海道 | 21  | 6.3%   | 18  | 5.4%   |
| 30 代    | 129 | 38.4%  | (内訳) 常用(本常備) | 61  | 18.2%  | 東北  | 62  | 18.5%  | 18  | 5.4%   |
| 40 代    | 93  | 27.7%  | 常用(準常備)      | 46  | 13.7%  | 関東  | 122 | 36.3%  | 171 | 50.9%  |
| 50 代    | 21  | 6.3%   | 日雇(登録)       | 37  | 11.0%  | 中部  | 48  | 14.3%  | 32  | 9.5%   |
| 60 代    | 2   | 0.6%   | 日雇(未登録)      | 70  | 20.8%  | 近畿  | 15  | 4.5%   | 24  | 7.1%   |
| 不明      | 5   | 1.5%   | 臨時           | 6   | 1.8%   | 中国  | 15  | 4.5%   | 8   | 2.4%   |
| 計       | 336 | 100.0% | 失対           | 1   | 0.3%   | 四国  | 4   | 1.2%   | 1   | 0.3%   |
|         |     |        | 雇用形態不明       | 4   | 1.2%   | 九州  | 33  | 9.8%   | 17  | 5.1%   |
|         |     |        | 土木建築労働者      | 52  | 15.5%  | その他 | 6   | 1.8%   | 1   | 0.3%   |
|         |     |        | その他          | 59  | 17.6%  | 不明  | 10  | 3.0%   | 46  | 13.7%  |
|         |     |        | 計            | 336 | 100.0% | 計   | 336 | 100.0% | 336 | 100.0% |

出所:本報告書3頁、12-13頁より作成

## 追記

本調査は、おそらく、宇田知道さんと田中俊夫さんの社会事業大学への働きかけ無くしては実現出来なかったであろう。お二人の生涯に関心を持った人は、まずは当所刊行の『寿町ドヤ街 第4号 宇田知道君とその時代』、『田中俊夫追悼文集』をぜひ手にとって欲しい。

## 寿町地域ニュース・あらかると (’18年7月～10月)

【国の貧困対策関係】＜厚労省関係＞「第3-4回生活保護受給者に対する就労支援のあり方に関する研究会」[8.19・10.29]「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」設置[10.22]「第1回社会福祉住居施設及び生活保護受給者の日常生活支援の在り方に関する検討会」[11.5]【センター(寿町総合労働福祉会館)】地上部分の建築進む[10.26 現在]【保育所】寿福祉センター保育所建築中[10.26 現在]【診療所】健仁外科医院が健仁整形外科・内科と改名し、院長が高錫浩氏から高倫浩氏となる(6月より改修工事)[9.3]【簡易宿泊所】HOTEL しらゆき(元白雪荘・浜一ビル。扇町4-11-2)7月1日オープン／GUEST HOUSE「La Cava」(元白樺荘)改装中／(仮称)松影町4丁目簡易宿泊所(元大丸ビル。松影町4-14-9,14-10)建替新築中／コムラード寿(扇町4-12-2・12-3)新築中[以上、10月現在]【デイサービス】神崎ビル1階(旧さなぎ食堂)でデイサービス建築中[10.26 現在]【新聞連載】神奈川新聞で「いわゆるドヤ街の福祉対策研究委員会」(1964年12月に発足し翌年10月に報告書発行)の委員長だった阿部志郎氏(当時横須賀基督教社会館館長)の「わが人生」連載が始まる[9.3]【その他】あさみ館と第一浜松荘の間の建物が解体され更地に[10.26 現在]

※ 寿町に関係する国・自治体の政策等も一部含まれます。(寿町関係資料室 松本 一郎)



## 職員自己紹介



新田 慎一郎

こんにちは、4 月からことぶき共同診療所の一員となりました新田（しんでん）です。

小さい頃から腰痛持ちの祖母にむかって「ぼくがお医者さんになったら、おばあちゃんの腰を手術して治してあげるから」とよく話していたようです。年を重ねるうちに、自身や周囲の人たちの「こころの傷つき」に出会い、次第に精神科医を目指すようになりました。

寿町には、色々な場所で色々な経験をされた方々の人生が集まっていて、ことぶき共同診療所はまるで「人生の交差点」のように感じられたりもします。土曜日の午後にアルコール依存症の方々を対象とした「しらふの会」に参加させてもらっています。参加された方が終わったあとに、またこのグループに参加したいなと思えるような、居心地のいい、楽しい雰囲気づくりを心がけています。

若輩者ではありますが、今後もより一層の研鑽を積んで参りたいと思っています。見かけたら気軽に声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。

永野 千尋

2018 年 10 月からことぶき共同診療所のデイケアで働かせて頂くことになりました。永野千尋です。

私は現在大学 3 年生で、将来作業療法士となるため学業に励んでおります。学校では、身体疾患を中心とした授業や実習が主です。そのため学校だけでは深く学ぶことの出来ない精神疾患をはじめとする知識や経験をこの診療所で皆様を通して学んで行きたいと思っています。

学生の身分である私ができることはとても限られていますが、持ち前の元気さを生かし、皆さんとの関わり一つ一つを大切にしながら全力で取り組んで行きたいと思っています。

はじめてボランティアでこの診療所に来た時は、寿町という街に驚いてばかりでした。その中で診療所に通う皆様やスタッフが暖かい雰囲気迎え入れてくれ、とても楽しく過ごさせていただきました。学業の都合もあり数少ない日数ではありますが、少しでも多くの知識や経験を身につけられるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

# 診療所日誌 ' 18 年 7 月～10 月

## 7 月 今年も猛暑の予感

- 3 日 天田医師の診察が火曜日に変更になりました。
- 4 日 渡部医師の診察が水曜日午前に変更になりました。
- 5 日 長野県のしなのむつみ高校の学生さん、実習に来る。今回はワゴンでなく、あずさに乗って。  
グループホームから出た H さん、飲酒止まらず入院に。残念。
- 14 日 肝硬変で入院を拒否していた T さん、意識もうろうで救急搬送後亡くなる。タバコが吸える病院があればいいのに…。
- 19 日 全国区で一世を風靡していた F さん、自室で自死。おどろきの幕引きだった。
- 20 日 俊夫さんの里山計画の一環の水槽のお魚さん亡くなる。吉浜町公園の桜の木の下に埋葬。
- 31 日 アルコールで入院していた T さん、退院後すぐに泥酔。入院前に冷蔵庫に入っていたお酒が残っていたよう。無念。

## 8 月 お盆。大切な人も連れて行ってしまいました。

- 2 日 湘南看護大学の学生さん実習に見える。
- 14 日 K さん、入院先探しに苦慮する。12 病院に断られ…。結局次の日入院希望がなくなる。
- 15 日 診療所の監事でもある松原英一さん急逝。言葉が出ません。
- 22 日 松原英一さん荼毘に付される。
- 24 日 保護費が貯まり生保廃止になってしまった K さん、本人途方に暮れ、以後体調を壊し続ける。

- 28 日 約 1 ヶ月部屋で騒ぎドヤを転々とし入院先も 20 以上断られ続けたもう一人の K さん、ようやく入院へ。

## 9 月 寿福祉プラザのみなさま、お世話になっております

- 1 日～2 日 デイケア稲子へ。
- 4 日 ことぶき介護に吉野さんがやってきた。
- 18 日 O さん落ち着かず、警察も何度か呼ばれているが対応されず。プラザの方にも協力してもらい入院につながる。
- 27 日 デイケア K さん、お引っ越し大作戦。

## 10 月 若い患者さんが増えていきます

- 12 日 ことぶき共同診療所大運動会、開催。
- 13 日 学生アルバイトの永野さん、勤務開始。
- 23 日 デイケアが江ノ島へ。

(矢島 雅子)

# 医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科  
内科 整形外科 鍼灸  
診療所

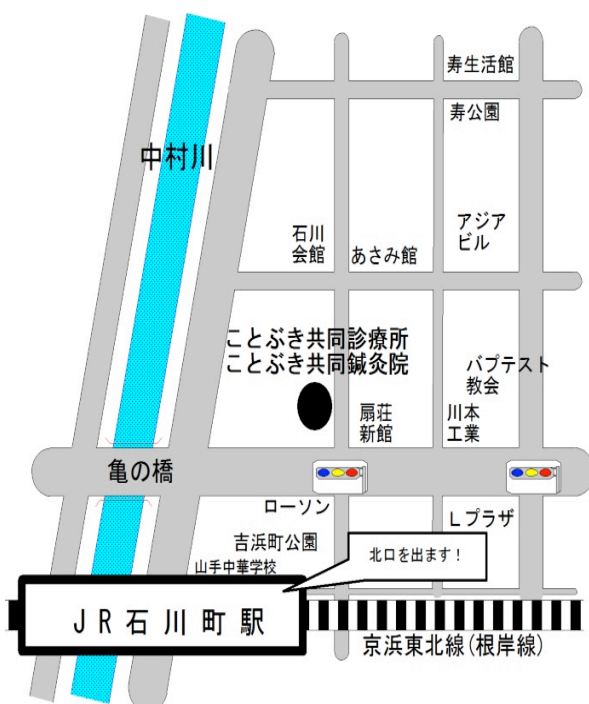
|   | 9時30分                              | 12時 | 14時              | 17時 | 診療科目                 |
|---|------------------------------------|-----|------------------|-----|----------------------|
| 月 | 休診                                 |     |                  |     |                      |
| 火 | 鈴木伸・天田・越智                          |     | 鈴木伸・天田・越智        |     | 精神科・神経科・心療内科・内科      |
| 水 | 土屋・越智・渡部                           |     | 土屋・越智            |     | 精神科・神経科・心療内科・内科      |
| 木 | 鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)                   |     | 鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3) |     | 精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科 |
| 金 | 鈴木伸・土屋                             |     | 土屋               |     | 精神科・神経科・心療内科・内科      |
| 土 | 鈴木伸・熊倉・鈴木美奈子(月2回・エコー検査)・野本(月1回)・新田 |     | ←受付11:30まで       |     | 精神科・神経科・心療内科・内科      |

※12-14 時はお昼休み

## 鍼灸院 (鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

|   | 9時30分 | 13時 | 14時   | 受付16時30分まで |
|---|-------|-----|-------|------------|
| 火 | 新井・鈴木 |     | 新井    |            |
| 水 | 新井・富永 |     | 新井・富永 |            |
| 木 | 新井    |     | 新井    |            |
| 金 | 新井    |     | 新井    |            |

※13-14 時はお昼休み



### ○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者総合支援法 (その他、医療福祉相談も受け付けています)

### ○心理判定

### ○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

### ◇所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17  
リバーハイツ石川町 1・2F

### ◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)

(045) 305-4322 (鍼灸院)

### ◇e-mail info@kyoudouclinic.com

### ◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2018 年 12 月 22 日現在